

Vol.2
市民協働を地域で支える
サブセンターを紹介します

サブセンターの活動紹介の第2回目は、和良町にある「和良おこし協議会」です。事務局長の加藤真司さんからお話を伺いました。

「和良おこし協議会では、市民協働を『住民主導の自治を、行政とともにつくる活動』と考えています。

和良町では、集落の現状や課題を集落住民らが共有するために、平成22年度からT型集落点検を行いました。協議会では、集落点検の結果を踏まえて、自治会等による課題解決に向けた活動や地域づくりを支援しています。

また、平成27年度からは自治会等の協力を得ながら空き家を活用した移住促進に取り組んでいます。これまでに18世帯40人が和良町に移住されました。移住者もたらす新たな風や刺激は、集落の活性化にもつながっていると感じています。

その他に、



▲ハザコ探検隊の様子

和良町の豊かな自然を生かしたツリーズム事業に取り組みます。和良ホテルやハザコ探検隊、田んぼオーナー等、季節に応じた各種イベントには、市外からも多くの参加者があり、移住につながることもあります。

▲田んぼオーナー制度の様子

近年、住民が和良の良いところを市外から来られた人に話すようになってきました。その姿を見ると、少しずつ意識が変わってきていることを実感します。

毎月、自治会長を交えて開催している地域づくり会議『和良おこし会議』では、地域づくりのアイデアや課題等がたくさん出されます。こうした活動をサブセンターとして地道に支援していくことが大切だと考えています。

市民協働センターでは、サブセンターである和良おこし協議会と連携し、和良町の地域づくりを応援していきます。

郡上市市民協働センター
88・2217

水柱

郡上市消防本部



ハザードマップについて

みなさんは、ハザードマップというものをご存知でしょうか？

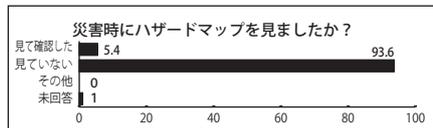
浸水や土砂崩れなどの自然災害による被害の予測範囲を地図に示したもので、被害程度、避難場所などの情報が図示されています。

このハザードマップを利用することにより、災害の発生時や発生が予想されるときに、迅速・的確に避難をすることができ、被害の低減に非常に有効的であると考えられています。

ハザードマップの残念な現状

このハザードマップについて東京の中央大学理工学部がある被災地に対してアンケートを行ったところ、残念なことにはほとんど活用されていないという結果が得られました。

「災害時にハザードマップを見ましたか？」



次の災害に備えて

「たか？」という問いに対して、およそ94%の人がハザードマップを確認していませんでした。また、「ハザードマップを見たことがありますか？」という問いには、「ハザードマップを知らない・見たことがない」と答えた人が61%に上りました。

みなさんには、ぜひともご自身の自治会のハザードマップを確認していただきたいと思えます。近くの避難場所はどこか、そこに至るまでの経路に危険箇所が無いかなど家庭内で話し合ってみてください。そして、ご自宅の場所が危険区域に指定されている場合には、いざという時に早めの避難ができるよう心掛けていただきたいと思います。

ハザードマップは市内各世帯に配布済みですが、紛失された場合は郡上市ホームページで確認していただくか、総務部総務課または各振興事務所にお問い合わせください。

消防本部
67・0119

《平成30年度》
宝くじの助成金により
テントを整備しました

市では、一般財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施している「コミュニティ助成事業」を活用し、白鳥町自治会長会（郡上市自治会連合白鳥支部）の活動備品としてテント17張（サイズ2間×3間）を整備しました。

